

 労協連だより

古村 伸宏

命の現実感が心に迫り、生命の営みが積み重ねられたまちの尊さと儚さが、一瞬の出来事を境に、とてつもなく大きく今を覆った。3月11日に発生した東日本大震災は、3週間経った今も全貌を現していない。それどころか、いくつもの濁流に渦巻かれる日本社会を露にし続けている。地震から2週間後に訪れた東北の地は、思考を止めさせ言葉を失わしめた。今なお行方不明者の数は減らない中で、復興の一步も踏み出せない日々が重ねられていく。抗い難い地震と津波の大きさは、人間の小ささを自覚するに余りあり、自らの小ささの自覚から、命の尊さを取り戻せと突きつけられたように響く。

幸い仲間の命は失わずにすんでいるが、その家族など周りの命や暮らしは大きな喪失を強いられた。死と隣り合った仲間の体験が、自らの暮らしと振る舞いを根底から突き動かす。阪神大震災がそうであったように、あの日から人々は、悲しみと絶望感の中から、人と人のつながりや支え合いを唯一のよりどころに、懸命に踏ん張り続けている。社会全体がそのことに望みを託し、一人ひとりのあり方ややり得ることを考えさせ、心を洗っているように思う。

一方で、愚かさや怒りの感情が向かう福島原発の事態は、現実の姿を突きつけた地震と津波の傷跡とは対照的に、見えざる恐怖と推し量れない将来への不安を拡大させている。最悪に向かう事態を前に、この事

実を何処に向ければよいのか。原発を巧みに商売道具にした人々と、これにだまされ続けた我々。今を境に、我々はもっと賢くならなければならないし、本質を問い直さなければならない。それは、全てを儲けの対象とした時代に幕を引き、全てを命の充実に向かわせるために、我々自身が変わり、社会全体を変える、という決意にかかっている。

大震災がもたらした困難と試練を越える「たたかい」は、人間の奢りを戒め合い、命を尊びあう、ケアと連帯による徹底した「支え合い」と「共生の文化」の創造につきる。復興への長い道のりは、社会のあり方そのものが転換するプロセスと同じである。被災地・被災者を巡る、心のケアや生活の再建、仕事の確保やコミュニティの再生などの取組みは、全国共通の「新しい公共の創造」として推進しなければならないし、その主体は、市民・被災者自身の主体性に基礎を置き、自治体や企業なども加わるネットワーク型の復興推進組織を中心とすべきだ。特に、仕事の確保を巡っては、この間主張してきた公的に、訓練と就労を一体的に運営する制度が必要となる。ゼネコン型の短期的な雇用の保障では、東北沿岸地域の人々の将来展望は見出せない。それどころか、日本の産業構造をどうしていくのか、と言う課題を避けることにすんなりかねない。仕事をおこし、地域をつくり直すネットワークの創造が、中心課題とな

るだろう。

阪神大震災は、市民のボランティア活動を活発化し、NPO法を生み出した。

今回の大震災は、市民の仕事おこしとコ

ミュニティの創造を活発化し、協同労働の協同組合法を生み出した、と言える取組みへ。残された命の使命を受け止めたい。

📄 研究所だより

細越 雄二

このたびの東日本大震災による被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

多くの尊い生命が失われ、あるいはいまだ行方が分からない、また、厳しい避難生活を余儀なくされている、という報道に接するたびに本当に心が痛みます。

東日本大震災による日本経済への影響は、政府の試算によると、直接的な被害額は16～25兆円と試算され、阪神・淡路大震災を上回る戦後最大の自然災害となるとのことです。この試算には電力制約の影響は考慮されていませんので、こうした間接的な被害額を含めるとさらに巨額になると見込まれます。1000年に1度の規模とも言われ、あらためて自然の脅威を思い知らされました。

このような自然の巨大な力を前にして、人は圧倒され、ただ立ちすくむだけのようには思われます。しかし、希望が失われ、明日がみえないと思われる状況に置かれても、人は共に助け合いながら立ち上がり、そして次代に生命をつないでいくために生きていかなければなりません。

東京大学教授の玄田有史さんは、『希望のつくり方』のなかで、「希望は与えられるものではなく、自分で(もしくは自分たちで)つくり出すものだ」と述べられてい

ます。希望は、だれかから与えられるのを待っているのではなく、自分で探し、つくっていくものだという訳です。確かに希望をつくるのは簡単なことではないかもしれませんが、困難な状況に置かれている人であっても希望を一切持てない訳ではなく、作り出せるものなのだという主張に私は感銘を受けました。

また、同書のなかに、「Hope is a Wish for Something to Come True by Action.」とあります。すなわち、「希望(Hope)」とは、「行動によって何かを実現しようとする気持ち」です。とても印象深い言葉だと思いました。希望は、この「気持ち」、「何か」、「実現」、「行動」の4つの柱から成り立っていて、希望が見つからないときは、どれか一つが欠けているのでそれを探してみようということが示されています。これまであまり深く考えてこなかった「希望」について、少しだけ理解できたように思います。

さまざまな不安に取り囲まれ、閉塞感が漂う日常の中で、自分の思うようにならない不満や不幸を時代、政治や社会のせいにしたくなる時が私にもあります。でもそこで立ち止まってそれを嘆き、状況が変わ

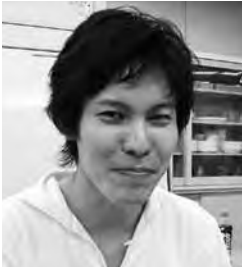
るのを待っているのではなく、大変だけでも一歩でも足を前に踏み出し、社会を変えていくという行動がいまこそ必要なのでは

ないでしょうか。

被災地の一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

ごあいさつ

楠野 晋一



この度、協同総合研究所に入所させていただきました楠野晋一と申します。私は、これまで東京農工大学大学院に所属

し、社会教育や環境教育の分野の研究を進めてまいりました。大学院での研究は、持続可能な社会を考えるため地域開発における住民参加のあり方をテーマとしました。具体的には、熊本県の川辺川ダム開発に対する住民運動や地方財政改革による自治体財政危機への住民運動の調査を行い、地域住民がどのように地域開発に関わり、決定する主体となるかを考えてまいりました。

そうした中で、労働者協同組合の取り組む「地域連携型のコミュニティ支援事業のあり方－多摩地区をモデルに－」の研究に加えていただいたことが、労働者協同組合との出会いとなりました。

この研究では、東京都福生市のFUSSA地域福祉事業所、東久留米市の東久留米地域センター事業所において新しい地域福祉のあり方を考えることを通して、指定管理者制度下での仕事おこしの方法、組合員研修のモデル化がテーマでした。2008年～2010年の3年間、一緒に取り組ませていた

だき、組合員の方々から多くのことを教えていただきました。とくに、組合員の方々がお互いのことを知り、地域に出ていくことによって地域の人々とのつながり、協同労働の原動力をつくり出していることを感じることができました。

また、指定管理者制度における厳しい制約のなかで、組合員の方がコーディネーター力を発揮し、地域の人々や利用者と地域の共通課題を共有することによって、新たな仕事づくりの芽をつくりだしていました。こうした、積極的に地域を新たに形成していく力をもつ労働者協同組合に感動しました。

さらに、こうしたことは私に持続可能な社会について考えるため、住民自治の視点だけでなく、協同労働という視点を与えてくれました。4月からは労働者協同組合に入団させていただくことで、協同労働の視点を少しずつではありますが、学ばせていただいております。

協同総合研究所では、2012年の国際協同組合年への取り組み、協同労働の協同労働の法制化への展開が、労働者協同組合運動を大きく発展させる中で、労働者協同組合の方向性として食・農・環境への視点を新たに考えていくことには大変興味をもってお

ります。こうしたことに関わらせていただきながら、よい仕事を中軸とした3つの協同にもとづく協同労働の理論化、現場の組合員を中心とした労働者協同組合の重層的な担い手の形成について、大きく考えれば住民自治と協同労働による自然-人-社会の転換の筋道を考え、協同組合の課題解決へ向けて貢献できるように力を尽くしていきたいと思っております。

現在は、新人研修にも参加させていただき、労働者協同組合の組合員の方々の熱い

思いを強く感じています。さらに現場研修においては、労働と生活を中心にした社会の再構成をめざす、現場の取組みをしっかりと体で学んでいきたいと思っております。さらには、多くの同期の仲間にも恵まれ、互いに励まし合いながら研修をうけることができています。こうした仲間や先輩方、協同総合研究所の皆さまをはじめ多くの方々にご指導いただきながら、労働者協同組合の発展に寄与していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入会員(2011.3.1～3.31)

樹神 成(三重大学人文学部教授、行政学)
高橋 正博(協働と連携の研究会・阪神(準)事務局)、関心:労働者協同組合、

特にアグレ・ワーコレ

塚口 伍喜夫(兵庫県高齢者生活協同組合理事長)

研究所活動日誌

03/01(火) 労協連「食農環境・産消連帯」プロジェクト事務局会議
03/02(水) 長尾氏(自治体問題研究社)来所／大塚氏(労福協)来所
03/04(金) 全労済協会シンポジウム参加
03/05(土) 労協連・全国障がい者就労支援会議(大阪:田嶋)
03/05-06(土-日) 労協連「食のよい仕事コンテスト」(本部、明治大学駿河台キャンパス)
03/08(火) 農山村再生研究事務局会議／いがた協同ネット運営委員会
03/09(水) 伊丹のつくおん、センター奈良西訪問調査(原田氏・藤井氏:立教

大学)

03/10-11(木-金) 「菜の花フォーラム・移動セミナー」(成田)
03/15(火) 協同総研事務局会議
03/24(木) 連合総研「協同組合の新たな展開」研究会(岡安、田嶋)
03/25(金) 協同総研定款作成プロジェクト会議
03/26(土) 協働と連携の研究会・阪神(準)主催記念講演会(尼崎)
03/29(火) 農工大学共同研究会議(農工大学)
03/30(水) センター組合員アンケート会議／「協同の発見」誌編集委員会／協同労働座談会・ディスカッション
03/31(木) 渡邊登氏(新潟大学)訪問(田嶋)